

先日、私の友人が韓国で言われたそうだ。「世界中がインフレで苦しんでいるのに、日本はまだインフレになっていない。どうやってたろうなるのか」と。決して、褒められてるわけではない。多少の皮肉も入っている。世界の多くの国が深刻なインフレに悩んでいる中で、いまだに2%台の消費者物価の上昇率に止まっている日本は確かに特殊である。

世界でも突出してデフレ傾向が強かった日本だからこそ、今回の世界的なインフレの中でも物価や賃金の上昇が鈍いのだろう。ただ、食料やエネルギーのように海外の価格と連動している商品の価格は大きく上昇しており、賃金が上がらない中で国民の生活を直撃している。日本でもインフレが広がり始めているのだ。日本でこの先どこまでインフレが

東京大名誉教授(国際経済学)

伊藤 元重

論壇

インフレと生活への影響

広がっていくのか予想することは難しい。ただ、世界的にインフレ傾向が続く、食料やエネルギーについては日本でも顕著に価格が上昇していることを考えると、日本でもインフレが広がっていく可能性は高い。デフレの時代とインフレの時代では、私たちの生活環境は大きく異なる。インフレに転じた時に、生活を

守ることを考えなくてはいけない。どういふ変化があるのかは、とりあえず海外で起きていることを参考にすればよい。インフレ時には、金利が高くなっている。米国の住宅ローンの金利が高くなり、住宅需要に影響を及ぼしつつある。こうした需要の減退が続けば、住宅価格にも影響が出てく

る。デフレの時代には超低金利が続く、これが住宅投資を支えさせてきた。金利上昇の影響は大きい。インフレの影響でもう一つ気になるのが資産運用である。日本ではこれまで突出して預金や現金が大きかった。低金利で物価が上がらなければ、それが最も安全な資産運用であった。国民はデフレ時代に合った資

産運用を続けてきたのだ。しかし、もしインフレの時代になると、金利を生まない普通預金や現金を保有していると資産価値が削り取られることになる。例えばインフレ率が3%だと、10年で価値の34%が失われることになる。5%のインフレだと、5年で28%、10年で63%の価値が失われる。ちなみに最近の米国でのインフレ率は8%を超えている。

*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。

もちろん、慌てる必要はない。仮に日本で3%台のインフレになっても、半年程度では資産価値の減少は1・5%程度に過ぎないからだ。ただ、日本でもインフレが定着するようなら、デフレ時代に染み付いた考え方を大きく変える必要がある。ここでは、住宅投資と資産運用を例に挙げたが、それ以外のあらゆる面でデフレとインフレでは、私たちの生活に及ぼす影響は異なるからだ。経済学の話は難しく苦手だ、と考える読者も多いだろう。ただ、私たちの生活は経済によって大きな影響を受けている。経済を理解するリテラシーが必要となっている。インフレという新しい経験をきっかけに、経済現象に関心を持ってもらえればと願っている。